

「土砂災害から命を守る」

鹿児島県 喜界町立喜界中学校 1年 比嘉 心琴

国語の時間に配布された作文課題がいくつもある中で『土砂災害』というテーマに目が留まった。2024年元旦に発生した、能登半島地震による土砂災害が記憶に新しいからだ。能登半島はその年の9月にも豪雨災害を被ることになってしまうが、この地震による土砂災害により『土砂災害警戒区域』が地震にも非常に有効であることが報道されていた。地震が土砂災害の発生を誘発する要因の1つであることを、私達に強く印象づけたことであった。

私達が暮らす喜界島ではどうだろうか。美しい自然に囲まれた壮大なイメージがある一方、恐ろしい土砂災害の可能性も潜んでいるのではないか。実際、2017年9月に50年に1度の記録的な大雨を観測している。1,604世帯、3,086人に避難準備情報が発令、島内複数箇所で土砂崩れが起きたほか、住家の浸水被害も14件発生した。同時に最大約3,000戸の停電、県道2箇所を含む複数の通行止めも発生し、大混乱を招いた。農作物の被害、路面崩壊の資料を見ていると、その変わり果てた姿に驚きを隠せない。

また、喜界島は日本の南側に位置しているため、台風の雨風の影響が大きく、より警戒しなければならない。そこで私は、土砂災害の起こる要因とその影響、自分でも出来る対策を考えてみた。土砂災害が起こる要因には、大雨や長雨・地震・火山噴火などが考えられる。これらの自然現象により、土石流・地滑り・崖崩れなどの甚大な被害をもたらす。地震に関しては、日本の周囲には4つのプレートが相接しており、日本にとっては常に危険と隣り合わせの状況である。温泉や湧き水の供給源になることや、防災意識が高まり、地震に強い建物や都市づくりが進むという、プラスに転じられる部分はあるが、地震や土砂災害に、常に危機感を持って生活していきたい。

次に、土砂災害がもたらす影響については4つある。1つ目は人的被害だ。山から流れてきた土石流に巻き込まれたり押し流されたりして、負傷者や死亡者が出ると考えられる。2つ目は建物の倒壊だ。土砂崩れに気がつかないまま、家屋や建物が倒れてしまいその下じきになり死亡してしまったという事例もある。3つ目は道路の渋滞や地割れだ。避難する際に道路の渋滞に巻き込まれて、逃げ遅れる人がいるかもしれない。また土砂崩れの影響で地割れが生じ、事故に巻き込まれるかもしれない。4つ目は2次被害だ。災害は1度起きたら終わりと思いたいことだが、多くの場合は何日か後にまた災害が起きてしまっている。そして、電気・ガス・水道・通信ネットワークなど、経済活動を円滑に進めるために不可欠なインフラがストップしてしまうことも重大な2次被害となり、それに伴い病院や役所も機能しなくなれば、生活は一気に崩壊すると思われる。さらに食料不足も重なれば、命の存続は非常に危うい。

最後に、土砂災害への対策についてだ。それは事前の物の備えと、その時に適切な判断をするための知識を備え、家族と共通理解をしておくことだ。まず、避難バックと防災グッズを準備しておくことは言うまでもない。最低3日分の食料品や衛生用品はもちろんのこと、家族構成に見合った必需品も必要だろう。食料品の備蓄には消費期限の管理も大切だ。いつ起こるか分からない災害に備えて、事前に物の準備をしておくことで、一時的ではあっても気持ちを落ち着かせたり、少しでも不安を取り除いたりすることが出来ると思う。知識の備えとしては、自分の住んでいる地域のハザードマップはある程度ポイントを抑えておく必要があると思う。自分の行動範囲のどこがどう危ないのか、どこが土砂災害区域なのかなど確認をしておく。さらにそれは家族と共通理解をしておく必要があり、家族と一緒に過ごしていない時は、どこに避難するかを数箇所決めておくことも大事だ。物と知識の備えを十分にしておくことで、もしもその日が来た時に少しは冷静な判断をして自分と周りの大切な人の命を守ることが出来るだろう。

私達が暮らす日本は、災害と表裏一体であることをいつも心に留め、過去の悲しい災害の事実を風化させないように話題にしたり、自分達に置き換えて考えたりしながら過ごしていきたい。

令和7年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 最優秀賞（県知事賞）

学校や地域での災害避難訓練にも積極的に参加し、皆が同じ方向で心を1つにして災害への意識を高めることが、1人1人の尊い命を守る道へ繋がると私は信じている。